

K 日本史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の文1～3を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 古代の都市として思い浮かぶのは、天皇の居所^{きょしょ}を中核とした宮都であろう。その象徴は、中央集権的な律令国家体制が形成される過程で造営され、持統天皇の時代に完成した(イ)京である。それ以前にも、飛鳥の地には歴代の天皇の宮が集中して営まれた。その始まりは推古天皇の頃といわれている。こうした宮の一例として、皇極天皇の宮として利用され、乙巳の変で蘇我入鹿が殺害された(ロ)宮がある。8世紀に入ると(イ)京から平城京へと宮都は移された。740年に、藤原宇合の長男である(ハ)が九州で反乱³⁾を起こしたことが原因で、政界の動揺が続くなか、聖武天皇は宮都を転々と移した。その後、8世紀の終わりには桓武天皇が長岡京に遷都し、さらに平安京に遷都することになり、9世紀以降⁴⁾、京都は政治都市化した。

2. 宮都とは系譜が異なる、武家が創出した中世都市として、鎌倉が挙げられる。源頼朝は1180年に鎌倉に到着すると大倉御所という館を構え、周囲には多数の御家人の館が建てられた。その後、北条泰時は自らの執権政治を始めるにあたって、將軍御所を別の場所に移し、自らは新たな御所の北側に屋敷を構えて政治の刷新を図った。これによって鎌倉時代の都市鎌倉は鶴岡八幡宮と新たな御所を中心に整備され、都市域が拡大することになった。(ニ)⁵⁾2年の冷夏などが原因で翌年に起きた(ニ)の大飢饉^{きん}以後、御家人の領地をめぐる争いが激しくなり、泰時はこうした危機を乗り越える意味もあって、その翌年には御成敗式目を制定した。泰時はこのように幕政の安定に大きな影響を及ぼした。

一方、宮都としての平安京は、条坊が荒廃し主要部が火災で焼失するなどの影響でその一体性は解体し、11世紀以降は平安京の外で都市的な場が開発されていく。その典型が東国への交通路上に位置した白河の地である。後一条・後朱雀・後冷泉という3代の天皇の摂政・関白となった(ホ)の死後、その子である藤原師実が天皇に白河の地を献上すると、白河天皇はここに法勝寺を建立し、後には院御所を設けた。こうして白河の地は院権力の拠点として都市化が進んだ。その後、院政は白河・鳥羽・後白河院と約100年にわたって続くことになった。また平氏が軍事力の拠点⁶⁾として館を設けた(ヘ)も平安京の外に位置した。承久の乱では、北条義時の弟である(ト)と、子である北条泰時が京都を占領し、この地に駐留して乱後の処理にあたった。これが(ヘ)探題の起源である。この一帯も武士の館などが建てられ、都市化が進んだ。このように平安京の外に生まれた複数の拠点を包摂しながら、京都は政治都市として存

続した。そして足利義満⁷⁾が室町に花の御所を設けると、有力な守護やその家臣が京都に集住するようになった。さらに、地方の有力国人らも（チ）とよばれる5番編成で構成された將軍の直轄軍に組織されて在京するようになった。しかし応仁の乱が起り、約11年も戦闘が続いたため、京都は焼け野原となり、また幕府の権威も衰えることになった。

3. 近世には三都とよばれる巨大都市が成長した。その1つである京都は、豊臣秀吉の政策⁸⁾によって大きく変貌した。たとえば御土居という惣構が設けられたこと、（リ）が新築され、その周辺に大名屋敷が建設されたことなどである。（リ）は秀吉が後陽成天皇を迎える場となったが、秀吉の甥である豊臣秀次が切腹させられた後に徹底的に破却された。その後、徳川家康も二条城を築くなど、京都は単なる宮都から一種の城下町に変貌したともいえる。そして幕府は、京都所司代をおいて朝廷を監視し、公家のなかから選ばれた2名の（ヌ）を通じて朝廷を統制した。こうして幕府と朝廷との関係⁹⁾は確立したが、近世を通じてそれは変化していった。

大坂はもともと石山本願寺を中心とした寺内町であった。本願寺11世（ル）は国内統一を進める織田信長と対立し、石山本願寺に立て籠もったが、1580年に和睦して大坂を退去した。その後この地には大坂城が築城され、さらに船場や堀江などが開発されて町域が広がった。各地の大名などの蔵屋敷がおかれた大坂には年貢米が大量に集まるようになり、これが米の卸売市場である（ヲ）米市場で取引された。そしてここでの相場が全国の米相場を左右することにもなった。このように大坂は全国の物資が集散する都市として繁栄したが、その後各地に地域市場が形成されると近世都市大坂の経済的地位¹⁰⁾は動揺した。

江戸は將軍が居住する最大の城下町として発展し、18世紀初めに人口が100万人を超える巨大都市となった。そのため近世中・後期の江戸では、多様な都市問題が発生することになり、幕府はその対策をせまられた。その1つとして寛政の改革¹¹⁾では、都市に流入した浮浪人や無宿者を収容するため、石川島に（ワ）を設けて、技術を身につけさせようとした。もちろん三都以外の城下町や港町、鉾山町、宿場町など、近世には多くの都市が存在した。物流の結節点として栄えた在方町などは都市といえるものであったが、近世の行政単位としては村という扱いであることが多かった。畿内のかわたの村¹²⁾でも、村内に家並みが続く景観が形成され、事実上の都市といえる場合があった。

A. 文中の空所(イ)～(フ)それぞれにあてはまる適切な語句をしるせ。

B. 文中の下線部1)～12)にそれぞれ対応する次の問1～12に答えよ。

1. 大宝律令制定後のこれに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. 官人には、官職に応じて職田・職封などが支給された
 - b. 太政官のもとに八省がおかれ、行政や財政・軍事などの職務を担当した
 - c. 天皇・国家・尊属に対する罪は八虐といわれ、貴族でも罪を免れないものとされた
 - d. 律は行政組織・官吏の勤務規定や人民の租税・労役などに関する規定であった
2. この人物の在位中の出来事として正しくないのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. 百濟僧の觀勒が暦法や天文地理の書をもたらし、年月の経過を記録することが始まった
 - b. 儒教の徳目である徳・仁・礼・信・義・智によって官吏の序列を示し、蘇我氏を徳に位置づけた
 - c. 天皇を頂点とする国家の秩序を明らかにするために、仏教を重んじることなどを説く憲法十七条が制定された
 - d. 煬帝は小野妹子から文書を受け取り、裴世清を倭国に派遣して、国交の樹立を認めた
3. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. 元興寺・薬師寺・西大寺などの大寺院が、飛鳥地方から移築された
 - b. 左京には西市、右京には東市が設けられ、市司の管理のもとに各地の産物が取引された
 - c. 東西よりも南北が少し長い長方形の区画の東部に、外京という張り出し部分があった
 - d. 北辺中央に宮城を置き、そのなかに天皇の居所^{きよしよ}である朝堂院を設けた
4. この頃の教育施設である大学別曹とそれを設けた貴族との組み合わせとして正しいのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. 学館院—和気氏
 - b. 勸学院—藤原氏

- c. 弘文院一在原氏
d. 奨学院一橋氏
5. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 勧進僧往阿弥陀仏が、この地に近い和賀江島に港湾施設を築いた
b. 市中は保という行政区画に分けられ、保奉行人がおかれた
c. 北条時宗の招きで来日した無学祖元が、円覚寺と寿福寺を開いた
d. 若宮大路が由比ヶ浜まで延ばされ、計画的な街路がつけられた
6. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 後白河院の発願により、蓮華王院本堂が建設された
b. 後白河院は、近臣藤原信西らと平氏討伐の密議を行ったことが発覚し幽閉された
c. 鳥羽院の発願により、尊勝寺が建設された
d. 鳥羽院は、院御所の防備のために、西面の武士という直属軍を組織した
7. この人物に関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 応永 6 年に、和泉国の堺に籠城した山名氏清を攻撃して敗死させた
b. 義堂周信、桂庵玄樹ら五山の禅僧を、政治・外交の顧問にした
c. 後小松天皇を北山第に招いて宴を行い、そこで世阿弥らが能を演じた
d. 明からの船は本字勘合、日本からの船は日字勘合を持参する、勘合貿易を始めた
8. これに関する出来事 a～d のうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。
- a. 小西行長・加藤清正らに命じて、16 万人の大軍で朝鮮を侵略した
b. 大仏建立を名目に、刀狩令を出して農民などから武器を没収し、所持することを禁止した
c. 大名らのキリスト教入信を許可制にし、さらにバテレン追放令を出して、宣教師の国外追放を命じた
d. 武家奉公人が町人や百姓になること、百姓が商業や賃仕事に従事することを禁ずる三カ条の法令を出した

9. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 紫衣事件を契機に、後水尾天皇は、徳川家光の娘和子が生んだ明正天皇に譲位した
 - b. 朝廷は光格天皇の実父に尊号を宣下したいと幕府に求めたが、松平定信はこれを拒否した
 - c. ハリスとの交渉にあたった松平慶永は条約調印の勅許を求めたが、孝明天皇の勅許は得られなかった
 - d. 柳沢吉保は將軍職の地位とその權威を高めるために、將軍と皇女との婚約を整え、閑院宮家を創設した
10. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 江戸に向かう廻船の積荷物を差配する大坂十組問屋が解散を命じられた
 - b. 大坂と江戸を結ぶ北前船の活動が、菱垣廻船・樽廻船の経営を脅かした
 - c. 佐原・流山の酒やみりんなどの江戸地廻り物とよばれる商品が大坂に流入した
 - d. 菜種の流通独占に反対して、摂津・河内・和泉国の村々が国訴を起こした
11. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 七分積金を運用するため、江戸町奉行所に市中取締掛が設置された
 - b. 洒落本などの好色本の出版が禁止され、作者である山東京伝が処罰された
 - c. 田畑の収穫高などを再調査して年貢増徴をはかる御料所改革が行われた
 - d. 風俗取締のため、歌舞伎役者の 7 代目市川團十郎が江戸追放を命じられた
12. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 衣服・髪型などで他の被支配身分とは区別され、えたの蔑称が用いられた
 - b. 死牛馬の解体処理や行刑役、牢番役などを強いられた
 - c. 皮革製造やわら細工などに従事し、農業には関与できなかった
 - d. 本百姓らが住む本村につけられた枝村の住民とされることがあった

Ⅱ. 次の文1～3を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 戦後日本の経済成長にとって、外交の安定と貿易の拡大は、まさしく必要不可欠であった。しかし、日本の歴史を紐解くと、両者の実現には長い紆余曲折の時間が必要とされたことが理解できる。近世以降の関連する出来事を取り上げつつ、この点について概観することにしよう。1600年に豊後に漂着したオランダ船（イ）号には、のちに徳川家康に仕え、外交・貿易の顧問となるウィリアム＝アダムズや、朱印船貿易に従事するヤン＝ヨーステンらが乗船していた。彼らの尽力もあり、徳川幕府は1609年にはオランダ、1613年にはイギリスに貿易の許可を与え、肥前の（ロ）にそれぞれの商館を開設させた。徳川幕府の初期の外交政策は、キリスト教は禁じるが平和的な貿易は奨励するというものであった。そのため豊臣秀吉時代から引き続き、人の往来も盛んであった。朱印船を派遣した商人たちは、東南アジア各地での貿易を活発化させていった。それにとどまらず、なかには海外に移住する者さえも現れた。移住先には自治制をしいた（ハ）町も作られるほどであった。しかし、次第に幕藩体制が整備されていくにつれ、こうした日本の外交政策にも変化がおとずれることとなった。＜あ＞年にはイギリス商館が閉鎖され、1641年にはオランダ商館が長崎に移設された。長崎を拠点に日蘭貿易はその後も継続されたが、オランダ人と日本人との自由な交流は禁止され、長崎奉行による厳しい監視下に置かれた。以後、日本は200年余りの間、オランダ・中国・朝鮮・琉球・蝦夷地以外との交流を閉ざす結果となった。こうした背景には、キリスト教への禁教政策の強化とともに、貿易を幕府の統制下に置くことでその利益を独占し、総じて国内統治を盤石なものにしようとする、幕府の政治的判断があったといえる。

2. 幕府が国内統治に奔走する間にも、18世紀後半以降の産業革命によって巨大な工業生産力と軍事力を手にした欧米諸国は、アジア進出を本格化させ、ほどなくその矛先は日本へも向けられることとなった。幕府は1846年にアメリカからの開港要求を一度は拒絶しているが、1853年にアメリカ東インド艦隊司令長官ペリーが軍艦4隻を率いて（ニ）に来航すると、幕府は久里浜で開港要求を記した（ホ）大統領の国書を正式に受け取り、1854年に再び来航したペリーと日米和親条約を締結することとなった。ついで幕府は、イギリス・＜い＞の3国とも、類似の内容の和親条約を結ぶに至った。1859年には横浜（神奈川）・長崎・（へ）の3港で貿易が開始された。しかし、この貿易は大幅な輸出超過であったため、それに刺激されて次第に日本国内では物価上昇が顕著となった。幕府は1860年の五品江戸廻送令などの流通統制により高騰する物価

の沈静化を図ろうとしたが、輸出向け商品を取り扱う在郷商人や商取引の自由を主張する列国の反対により、ほとんど効果はなかった。また、日本と外国との金銀比価の違いから、多量の金貨が日本から海外へと流出した。幕府は（ ト ）小判などを鑄造し、金貨の品質を大幅に引き下げる貨幣改鑄を実施することで、この問題に対処しようとした。しかし、貨幣の実質価値を下げたために、逆にこの改鑄はさらなる物価上昇を招く結果に終わった。こうして、次第に日本国内には貿易に対する反感が高まり始め、これがのちに激しい攘夷運動⁵⁾をひきおこす一因ともなった。そもそも、この当時の日本と欧米諸国との貿易は、日本側の関税自主権の欠如など、不平等条約を前提としていた。そこで、1871年から1873年にかけて米欧に派遣された岩倉使節団が、幕府から引き継いだ不平等条約の改正に向けてアメリカと交渉を行ったものの、その目的を果たすことはできなかった。1876年からは、外務卿の（ チ ）が再びアメリカとの交渉に臨んだが、結果として関税自主権の回復はかなわなかった。

3. 日本側から貿易相手国へ不平等条約を押し付ける場面もおとずれた。たとえば、1875年の（ リ ）事件を契機として、翌1876年、日本は日朝修好条規において、日本側の（ ヌ ）裁判権や関税免除を認めさせるなど、朝鮮側に不平等条約を押し付ける結果となった。この交渉の日本側の代表は、大日本帝国憲法が制定された当時、内閣総理大臣を務めた（ ル ）と、第1次伊藤博文内閣の外務大臣として、欧化政策を進めた（ ヲ ）であった。（ ヌ ）裁判権の撤廃に続いて、日本側が関税自主権の回復を達成したのは1911年で、欧米諸国との条約上の対等な関係を実現するまでには、開港以来約半世紀の時間を必要としたことになる。一方、その間にも、日本は引き続き朝鮮への影響力拡大と経済進出を目指し、同じ目的を持っていた清国との対立を深めていった。1894年に日本は清国に宣戦布告し、日清戦争が勃発した。戦いは日本側の勝利に終わり、1895年の下関条約によって（ ワ ）半島の日本への割譲が取り決められた。しかし、東アジア進出を目指すロシアと、そのロシアの誘いを受け入れたドイツ、＜ う ＞も加わった、いわゆる三国干渉によって、日本は（ ワ ）半島の返還を余儀なくされた。この時の日本国民のロシアへの敵意は、のちの日露戦争へとつながっていくのだが、これをきっかけに日本は国を挙げてよりいっそう軍勢力増強に邁進していくことになった。その後、日本は2度の大戦を経て敗戦国となったのちに、国際社会に復帰を果たし、まさしく外交の安定と貿易の拡大によって高度経済成長を実現した。

9)

6. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 安政の諸条約の改正交渉の前に、予備交渉を行うことを目的としていた
 - b. 記録係であった山口尚芳は、『米欧回覧実記』を編纂した
 - c. 大使として派遣された岩倉具視はこの時、太政大臣の職位にあった
 - d. 副使として、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文、久米邦武が派遣された
7. この年の出来事でないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 清国では専制と異民族支配に反対する、辛亥革命が起こった
 - b. 第 2 次桂太郎内閣に代わって、第 2 次西園寺公望内閣が成立した
 - c. 第 2 次桂太郎内閣によって、工場法が公布された
 - d. 日本は韓国併合条約に調印し、韓国を植民地化した
8. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 日清両国は朝鮮から撤兵し、出兵の際には互いに事前通告することを決めた
 - b. 日本全権は伊藤博文・陸奥宗光であった
 - c. 日本は新たに、沙市・重慶・蘇州・広州の開市・開港を実現した
 - d. 日本への賠償金 2 億両は、当時の日本貨に換算すると約 30 億円に相当した
9. この期間に起こった好景気 a～d のうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。
- a. いざなぎ景気
 - b. 岩戸景気
 - c. オリンピック景気
 - d. 神武景気

【以下余白】

